
雪州会多与架

雪州会だより

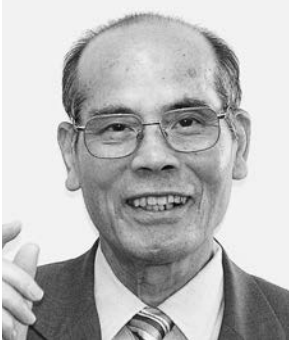
第38号(平成22年)
東京雪州会発行



3月に開館した一支部博物館

東京雪州会は ふるさと壱岐の発展に協力します

ご挨拶



会員の親睦や杓岐との交流を深化

東京雪州会会長 牧 山 康 敏

自慢話ほど聞き苦しいものはない。ただし、ふるさと自慢だけは例外である。昭和初期に、フランスとスペイン国境の小さな町から来日したガンドウという思想家・哲学者はこう言ったそうです。

幸いにも私達は、自慢し誇れる杓岐を故郷としています。私はこの度、この杓岐出身者の集い「東京雪州会」の会長に推挙されました。会員の皆様の「もう一汗かけ」との無言の「圧力」に押し切られた気持ちです。皆様のご支援・ご協力を得て、皆さんと一緒に当会の発展に尽くす決意であります。

東京雪州会の役割は二つに大別されると考えています。一つは、会員相互の親睦・交流を深めることです。各種のイベントを通じて、多くの出会いの機会を増やすことが大事でしょう。

今一つの役割は、故郷との交流を深め、杓岐市の活性化に少しでも貢献することにあります。杓岐では各種特産品を活かした振興策が、各分野で進め

られています。加えて、原の辻遺跡に一支国博物館と長崎県埋蔵文化財センターが今年三月に開館し、観光交流などの起爆剤として期待されています。

東京雪州会では今年五月末から二泊三日の日程で、四十五人（半数は杓岐出身者）が参加して、ふるさと杓岐ツアーを四年振りに実施しました。故郷との交流及び地元活性化への一助になればとの考えに基づくものです。

政治は迷走。経済は大揺れ。地方は置き去り―こんな構図が日本を覆っています。半面、アジア中心に新興国は今、高度経済成長期を迎えています。

グローバル化の恩恵を如何に活用し、取り込んでいくか。国も地方も知恵の見せ所です。

東京雪州会は、杓岐の各種の情報発信を東京でサポートし「ふるさと自慢」に一層の磨きをかけたいと考えています。

（芦辺町箱崎出身、経済ジャーナリスト・日本記者クラブ会員）

〈寄稿〉

歴史を敬い

未来を築くまちづくり

壱岐市長 白川 博一



「雪州会だより第三十八号」のご発刊を、心からお慶び申し上げます。

また、東京雪州会におかれましては、日頃より、ふるさと壱岐の振興発展のために多大のお力添えをいただいておりますことに対し、深く敬意を表し心から感謝申し上げます。

ご承知のとおり、壱岐市では、本年三月十四日に、待望の「一支

国博物館」がオープンし、開館から今日まで大変好評を得ており、予想をはるかに超えるお客様に入館いただき、十月八日には十万人を達成しました。

雪州会の皆様には、開館後間もない五月に、ふるさと壱岐ツアーを企画していただき、博物館を中心とした壱岐の名所をご覧いただきました。この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

原の辻遺跡を核に

今後、市といたしましては、原の辻遺跡を核として、観光や産業の振興に努め、さらなる交流人口の拡大を目指して参ります。

また、壱岐市全世帯・全事業所

を対象にした光ファイバー網を整備する事業に着手し、平成二十三年三月の完成に向け、現在進めているところです。

光ファイバー網を整備

この事業は、国の施策をいち早く活用し、本市において後世に残る画期的な社会資本整備事業であると確信しております。

また、中学校統廃合につきましては、来年四月より、現状の十校から四校へ減少することとなります。

中学統廃合で人間力を

母校がなくなるといふことは、大変寂しいものでありますが、生徒数が激減する中、部活動にも支障を来たような現状であり、次代を担う壱岐の子ども達が、心豊かで、たくましく、人間力を持った子どもに育つよう、避けては通れない問題でありますので、ご理解をお願いいたします。

喫緊の課題を果敢に

このほか、市立病院改革、一般廃棄物処理施設整備事業、航路等の交通対策など、喫緊の課題に対し、何事も自ら進んで事を成す「進取」の精神で臨み、「壱岐に生まれて良かった」と心から思えるまちづくりを目指して、誠心・誠意取り組みしております。

皆様には、壱岐の情報を市のホームページや私のブログ等で提供させていただきましますので、今後ともふるさとへの変わらぬ愛情を注いでいただけるようお願いいたします。

結びに、東京雪州会の益々のご発展と、会員皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

〈壱岐と私〉

元内閣官房副長官 古川貞二郎氏に聞く

歴史的文化と未来をつなぐ島 故郷を学びよく知る事が大事

（聞き手 東京雪州会会長 牧山康敏）

私が初めて壱岐を訪ねたのは平成十九年五月のことです。第一回日本子守唄フォーラムが壱岐で開かれた際、長崎シーボルト大学教授の小林美智子さんらに是非参加してほしいと招かれたからです。

その時、九州大学法学部で壱岐出身の同期の平田賢二郎君（元長崎県議）や平山旅館の女将・平山宏美さんに壱岐を案内してもらい、古代ロマンの歴史文化と自然の素晴しさを実感しました。

私の社会人としての第一歩は長崎県総務部勤務で、壱岐・対馬も担当地区だったのですが、その後、厚生省に入省した関係で残念ながら当時は壱岐にも行けませんでした。今度、壱岐を訪ねて、その良

さを感じたのは壱岐には「日本の原形」があるということです。私は歴史が好きでよく史跡なども散歩します。ただ本を読むだけでなく歴史の現場に行つて史実を確かめ往時に思いを致すのも楽しいからです。

壱岐は歴史的遺産の弥生時代の原の辻遺跡のほか、蒙古襲来による弘安の役などで大変な悲劇に遭



遇し、あちこちに千人塚がありますね。小さな島に古代ロマンの歴史が息づいている感じがします。それに加えて筒城浜の砂浜など素晴らしい自然があります。

歴史や自然だけではない。市長さんを中心に皆さんが壱岐全体をアピールしておられる。過去と未来が繋がっている印象です。単なる観光宣伝だけでなく島内の地域の特色を生かしながら壱岐が一体となつて日本の原形、日本文化を残し生かそうとしているところが素晴らしい。壱岐を故郷にもつてい

る人はある意味で幸せですよ。壱岐には産業が少ないといいますが、立派な観光資源がある。これは素晴らしい産業ですよ。麦焼酎、壱岐牛、美味しい魚、雲丹、お菓子などの特産物を生かしてほしい。観光で一番大事なのは地元の人が郷土について歴史を学び、よく知ることです。

壱岐の良さは一度行ってみないと分からない。百万言よりも一回行くことですね。ただ問題はぶ

らりと一人二人で壱岐を訪ねたときの足の便をどうするか、課題でしょうね。それに高齢化時代に対応して定年退職した夫婦などお年寄りが一週間程度ゆっくり島で過ごせるような宿泊施設や料理などのあり方も工夫されるといいですね。

私は三年半前、壱岐でホタルの乱舞を見ましたが、とても素晴らしい。来年のホタルの時期には家内と姉夫婦、妹を連れてまた壱岐に行こうと思っています。家内もホタルや歴史が好きなので今から楽しみにしていますよ。

官房副長官は歴代最長

プロフィール 昭和9年佐賀県生まれ、33年九州大学法学部卒と同時に長崎県総務部勤務。35年厚生省入省、大臣官房長、厚生保険局長などを経て平成5年厚生事務次官。平成7年から平成15年まで内閣官房副長官。村山、橋本、小淵、森、小泉内閣まで5人の首相を支え、在任期間8年7カ月は歴代最

長。人脈の広さは政官に留まらず財界・文化人など国内外に及ぶ。いまも皇室典範に関する有識者会議委員、東京都社会福祉協議会会

長など多くの公職を務める。新聞・雑誌などマスコミにも頻繁に登場。趣味は菜園作り、歴史散歩。

見て感じて日本一の博物館目指す 壱岐を誇り夢を育む子供教育にも

一支国博物館 館長 須藤 正人



季節は秋、壱岐の空が美しい。博物館の展望室からの眺めは、まさに絶景。島の隅々まではつきりと見え、博多、呼子、すぐそこにある。壱岐がこんなに広く大きな島であったのかと思いを新たにしています。

故郷に錦 数奇な運命の重文2点

今夏、博物館の第二回特別展「ふるさと里帰り展」が話題になりました。もともと壱岐にあった文化

財が、何らかの事情で島外に持ち出され、そのうちの二点が幸運にも、国の重要文化財に指定され、展覧会の期間中、ふるさと壱岐に戻ってきたからです。その一つが郷ノ浦町の鉢形嶺から掘り出された経筒の弥勒如来坐像です。一六七七年に平戸藩の神道家・橘三喜が掘り出し、四年後に埋め戻されます。辺りによからぬ事が続いたためでした。三百年後の一九七七年、地中で眠っているはずの仏像が、国の重要文化財に指定され、全国紙に大きく報道されました。いつ、誰が再び掘り

出したのか、全てが謎です。いち早く延久三年（一〇七一年）の年号がある石仏の学術的な価値を見出されたM先生との出会いが重文指定となり、現在、奈良国立博物館で大切に保管されています。

残る一つは、勝本町のカラカミ遺跡出土の弥生時代の壺です。電力の鬼・松永安左エ門翁が松本友雄コレクションを引き継ぎ、身近に置きます。その中の壺型土器が国の重要文化財に指定。今は福岡市美術館に寄贈されています。

M先生と松永安左エ門という、二人の巨人との奇しき出会いが、壱岐を後にした文化財の運命を定めました。幸運の二文字でした。

国の重要文化財を展示公開するためには、様々な設備や条件が必要ですが、一支国博物館は国宝や重要文化財の展示を念頭に入れて建設されています。壱岐の人々や壱岐を訪れる方々は、日本のトップクラスの文化財を思う存分に楽しみ、観賞していただけるのです。

皆様のおかげで新たな役目も

三月十四日の開館以来、半年あまりの月日が流れていますが、開館の日の緊張感が今も私にはあり、博物館勤務の日は妙に肩や肘が張って、堅苦しく、ぎこちないのです。そんな日々、入館五万人目のお客様を開館八十三日目の六月十三日にお迎えすることが出来ました。佐賀県の権藤さんご一家で「光栄です」と心から喜んで下さった言葉が有り難く、心の励みになっています。そして十月八日には十万人を達成しました。

入館者は当然のように土・日・祭日に多く、ボランティアの皆さんによる展示品の説明が好評です。多人数の団体の皆様には、出来るだけ多くの班に分かれていただき、肉声でのご案内を心がけています。

台風4号接近中の八月十一日、予想を越える七六五人の入館がありました。島内の多くの施設が臨時閉館に踏み切っていました。

で、博物館の新たな役割を果たすことが出来たと思っています。

壱岐の将来と一支国博物館の使命

平成十六年、島の全四町が合併し壱岐市が誕生。市は壱岐島の将来像を「海とみどり、歴史を活かす癒しのしま 壱岐」と定め、豊富な歴史遺産の研究・保存・公開を通して文化による島おこしを開始しました。

一支国博物館は壱岐島の歴史や文化の殿堂であると共に、観光を始め各種の産業や教育の場として、島ごと博物館・島ごと大学・島ごと元気館という、壱岐全体を視野に入れた地域振興の拠点の一つとして、壱岐の将来の発展を担う、という大きな使命を持って開館しました。

この博物館で、壱岐の歴史や文化のものをすごさを、見て感じていただきます。特に壱岐の子供達には、館内の展示品や、博物館の雄姿を目の当たりにして、ふる里壱岐に誇りを持ち、その誇りを自信

にして、将来の大きな志や目標を自分で立て、その実現のための努力を日々続けることが出来る心身ともに強い人間になってもらいたいと切望しています。

また館内には会議室や図書館、多目的ホールなどもあります。島内の老若男女の全ての人々が、気軽に博物館に出かけ、それぞれの時間を楽しむ、という生活習慣を身につけていただければ、と夢見ています。



お国自慢出来る親かな博物館に

一支国博物館には日本一が二つもあります。日本の建築界に数々の金字塔を打ち立てた「鬼才・黒

川紀章」設計の博物館本体と、館内の展示品の質の高さです。国の重要文化財に指定されているものと、二年後の国の重文指定を待つ品ばかり、といってもよさそうです。

そして今、私達は三つ目の日本一を目指しています。それは、身近にある小さなことを大切にすること、日々の活動をはじめ、来館者の皆さまのご要望を、一つでも多く叶えてさしあげようと努力する心がけに徹した、日本一親かな博物館になることです。遠大な目標です。

壱岐に住む私達と、ふる里を遠くに望む雪州会の皆さまとの共通の想いは、壱岐への愛着でしょう。雪州会の皆さまが安心して胸を張って、お国自慢できますよう頑張ります。ご指導よろしくお願い申し上げます。

(壱岐市教育委員会教育長)

データは語る—ふるさと壱岐は今… (平成22年度)

壱岐の総人口	30,488人(過去最高時 51,765人＝昭和30年代)＝H22. 7. 31現在
内 訳	男性14,509人：女性15,979人＝H22. 7. 31現在
内65歳以上	男女計9,453人(全人口比31.0%＝全国平均22.7%)
壱岐の総世帯数	11,691世帯(現在が最高)＝H22. 7. 31現在
壱岐の年間観光数	554,098人(平成21年1月～12月)＝長崎県観光統計
壱岐市の年間予算	平成22年度当初予算 227億5,500万円

中学校4校に統廃合の経緯： 生徒により良い教育環境の提供

彦岐市教育委員会 教育次長 前田 清信



彦岐市では昭和三十
七年度を
ピークに生
徒数が減り

続け、現在においてもその減少に
歯止めがかからない状況にありま
す。最近ではこの二十年足らずの
間に半分以下に減少しています。

このような中、平成十六年彦岐
市議会における「学校の統廃合」
に関する質問の中で、「中学校の適
正な規模実現に向けた判断」が求
められ、以後の市議会でも同様の
質問が出されました。その大きな
理由として「少子化が進み、十分
な集団教育が出来ていない」部活
動の選択などで子供達が不自由し
ている」ことなどのご指摘を受け
ました。

その後、彦岐市教育委員会では、
中学校規模適正化について具体的
な検討に入り、教育委員会内部で
の研究や生徒保護者、教職員への
アンケート調査、全市民に対して
パブリックコメントを実施しまし
た。また統廃合についての専門的
な協議機関として「彦岐市中学校
統廃合に関する懇話会」を立ち上
げ、一年間かけて熱心に協議して
いただきました。

この懇話会では彦岐市の中学校
の現状と課題を踏まえ、統廃合の
是非についてあらゆる角度から議
論が繰り返されました。話し合い
の上で、統廃合実施についての方
向性が定まると、どのような具体
案が良いかについても様々な案が
出される中、最終的には四町に各
一校設置の結論となり、平成二十

年七月九日に彦岐市教育委員会教
育長に対して、答申が出されまし
た。

彦岐市教育委員会ではこの答申
内容を重く受け止め、次代を担う
生徒により良い教育環境を提供す
るため「彦岐市中学校規模適正化
「統廃合」計画」を平成二十年八
月に策定。

この計画でも述べていますが、
中学校の小規模化に伴う課題とし
て、学年が変わっても新たな学級

編制（クラス替え）が出来ないた
め生徒同士の間関係が固定化し
序列化しやすくなる、生徒間の交
流が限られ適度の刺激や切磋琢磨
の機会が少なくなる、開設出来る
部活動が限られ生徒の興味や願
いに応えられない、教職員の数が少
なく教科によってはその教科の免
許をもたない教員が指導しており
専門的な指導が出来にくくなって
いるーなどが指摘され、これらを
解決するためには、中学校の規模
適正化＝統廃合を行う必要がある
と捉えています。

各地区、各町での説明会や協議
会の実施を経て、平成二十一年度
には、各町ごとに学校代表、PT
A代表、地域代表で組織する準備
委員会、専門部会を立ち上げ、新
しい学校づくりに向けた準備にと
り取り組んでいます。すでに多く
のことが決まり、平成二十三年四
月には、生徒が新しい中学校に、
安心して意欲や希望をもって通う
ことが出来るように準備を仕上げ
ていく予定です。

中学校統廃合後の各校の生徒数 (H22年9月現在の予測数)					
新中学校名	1年	2年	3年	全校	校舎の位置
郷ノ浦中学校	107	108	120	335	現武生水中校舎使用
勝本中学校	68	50	62	180	現勝本中学校舎使用
芦辺中学校	83	82	78	243	現田河中学校舎使用
石田中学校	46	45	51	142	現石田中学校舎使用

＊彦岐市教育委員会調べ

〈母校の思い出〉

夏は皆で海、遠足は岳の辻

「初山中学校」 長嶋 文満



私の母校
初山中学校
(昭和二十
二年四月小
中併設校と
して開校)

は、開校以来六十四年
間を経て、このたび統合により閉
校されることになります。この間

の卒業生は二千五百十人だそうで
す。寂しさはぬぐえませんが、初
山の子供達にとっては新たな旅立
ちでもあります。

現在は全校生徒三十人(男十八
人・女子十二人)で、クラブ活動
もテニス部だけだそうです。壱岐
の中でも最も小規模校とのことだ
ですが、テニス部はとても優秀で近
年全国大会にも出場したほどで
す。私たち先輩にとってはとても
誇りに感じ嬉しい限りでした。

私は今から四十数年前の昭和四
十三年に母校を卒業しました。当
時すでに、各学年一クラスの小規
模校でした。そのため、運動会な
ども小学校と一緒に行っていまし
た。地域の皆さんが応援に多数来
られ、各地区対抗戦で優勝を競っ
ていたものです。

当時、プールなどはなく、夏は
全校生徒で水泳訓練と称して「白
牛の浜」や「黒浜」に一日泳ぎに
行っていました。全校遠足はほと
んどが「岳の辻」であつたと思ひ
ます。授業も先生が少ないため一
人で二教科ほど受け持つことも。
美術の時間などは「写生会」と
称して「ぐみのうの辻」まで行き、
絵はそこそこに描き上げ、皆で野
原を駆け回ったものです。下校す
るときの渡良の三島方向の海に沈

む夕日の素晴しさは今でも鮮やか
に覚えております。

母校が閉校になることは誠に残

念ではありますが、初山の子供達
が新しい中学校でさらに活躍され
ることを心より願っております。

当時は給食も制服もなく…

「渡良中学校」 日高 恵美子



昭和三十
四年三月に
渡良中学校
を卒業して
以来、早く

も五十年以上が過ぎてしまいまし
た。小学校からの同じ仲間で中学
校へ進み、特に中学生になったと
いう実感が薄かったように記憶し
ています。当時の渡良中学校は、
給食も制服もなしです。お弁当の
代わりに時々、サツマイモを新聞
紙に包んできて食べる人もいまし
た。我が家では幸いに普通のお弁
当を持たせてくれました。いま思
うと有り難いことでした。
また冬の寒い日には今日のように

な防寒着は少なく、綿入れ半で
んで通学する人も見かけました。
でも、みんな明るく、伸び伸びと、
よく遊び、よく学びました。そん
な思い出深い母校が、年々児童数
の減少で、来年度から統合して「郷
ノ浦中学校」になるとか。

私たちが仲間とともに青春の一
ページを刻んだ校舎やグラウン
ド。その母校が消えるのは何とも
寂しさ一入で、感慨深いものがあ
ります。これも「少子高齢化」と
いう時代の流れの現実なのでしょう
うか。今度帰省するときには、母
校・渡良中学校を訪ねて、懐かし
い中学時代の思い出を改めて胸に
刻みたい気持ちもあります。

仲間と新婚先生の家に押しかける

「沼津中学校」 坂井 伸州



沼津中学校を巣立つて早五十年。当時の恩師のお二

人の先生について思い出してみたい。N先生は理科担当で、渡良からオートバイで通勤されていました。恒例の沼津く郷ノ浦往復四地区対抗校内マラソンでは、いつも選手の先導役をされていました。

今では駅伝やマラソン大会を観戦するたびに当時のN先生のオートバイでの先導振りが思い出されます。

S先生は社会・体育の担任で、我々が中学に入学した時に確か教職スタートされた、そして新婚さん!!と記憶していますが…。夏休みには先生の新婚家庭に押しかけてみようと同級生仲間五く六人で計

画し実行しました。

当時、先生の新居は郷ノ浦の塞神社の前あたりだったと思います。が、記憶違いかもしれません。新婚旅行で「富士登山」をして来た

このお話を伺い、その時使用された「金剛杖」が部屋に飾ってあったのが印象的でした。

お昼に奥様手料理のチラシ寿司を皆でご馳走になり感激して帰った思い出が今でも強烈に残っています。この両人の恩師、N先生は西村良雄先生、S先生は末永覚先生です。

両先生、退職後も多大な社会貢献をされたとのことですが、お二人とも既にお亡くなりになったと聞いています。心からのご冥福をお祈りします。

(昭和34年3月卒、東京雪州会会計担当)

中学校では応援団で活動

「武生水中学校」 横山 致和



昭和二十八年八月九日午前十一時二分、長崎に原子爆弾

投下。父横山淳は勤務先の長崎工業学校で被爆し同十七日に死亡。

母と私たち兄弟は爆心地から三・五⁺離れた郊外に住んでいたため被爆を免れました。私は六歳、一生忘れられない八月九日です。

昭和二十一年、両親の出身地である彦岐の柳田に引き揚げる。都会の生活から一変、人影もまばら、石油ランプに井戸水の生活でした。柳田小学校に転校生で入学。田中触同級生男女五人。担任は山口コト先生。部落対抗バレーボール大会に兄弟で出場し優勝も。

昭和二十七年柳田小学校卒、武生水中学校に入学。同期は柳田、

志原、盈科の各小学校卒業生一九七人。私は部活の応援団活動に取り組みました。母の女学校の同級生の息子さんと内山武之助君と知り合い、社会人になってからも付き合いは続きましたが、他界されました。残念の極みです。帰省時には彦岐高近くのお墓に参るのが慣例になっています。

昨年十月に彦岐の「ステラコート太安閣」で武中第五回生同期による古希同窓会が開かれ五十二人が再会しました。ただ名前と顔が思い浮かばず、ネームプレートで改めて思い出す光景も。話も弾み中学時代の思い出に花が咲きました。武生水中学はさらに統廃合され来年四月から「郷ノ浦中学校」に校名も変わりますが、中学時代の思い出は尽きないものです。

ソフトに熱中 県大会で優勝も

「鯨伏中学校」 神立エリ子



昭和四十
六年、生ま
れ育った壱
岐から十八
歳で上京。

あれから四十年…東京での生活を
これまで支えてこられたのは私の
大好きな故郷・壱岐があったから
です。

鯨伏出身。毎日温泉に入り湯の
本湾の夕日や漁火を見ながら十八
歳まで過ごしてきました。帰郷し
ても、この素晴らしい景色を見るこ
とがどんなに贅沢なことか。いつ
も私に元氣とパワーを与えてくれ
る場所です。

鯨伏中学校はその湯の本湾を見
下ろす少し高台にありました。木
造作りで、先生の話を聞きながら、
窓側からボーッと湾に浮かぶ島を
眺めていたものです。グラウンド

は校舎の並びから少し下りた場所
にあり、運動会ともなると父兄応
援席は我が子の活躍する姿を見渡
せる最高の席で、部落対抗リレー
等で盛り上がったものです。

中学では三年間、ソフトボール



昭和43年長崎県大会 優勝旗で行進

部に夢中になり、当時の律野先生、
白川先生の指導のもと、周りの人
たちにも恵まれ長崎県大会で優勝
することが出来ました。現在は小
中学校とも湯の本に移転し昔の面
影がありません。昨年、帰郷した
折、友達を誘い昔の中学校跡を訪
ねてみました。校舎もグラウンド
も草だらけ。寂しさが込み上げて
きました。やはりこの場所は私
にとって心の支えであり宝物で

す。中学校統廃合で「鯨伏中学」
の校名も消えると聞き、名状しが
たい気持ちです。
私は五十八歳になった今でもマ
マさんソフトボールを続けていま
す。素晴らしい仲間に囲まれ、家族
にも感謝しながらグラウンドでは
「よかよか」「頑張ろうや」——私
の大好きな壱州弁が今日も響き
渡っています。

カラス捕り名人や魚釣り名人も

「勝本中学校」 村井 有



作家・堺
屋太一氏は
一九四七年
から一九四
九年の三年

間に生まれた子供たちを「団塊の
世代」と名付けました。日本開闢
(かいびやく)以来、最も出生数
が多かったときです。勝本中学校、

昭和三十八年三月卒の私たちは、
一九四七年四月から一九四八年三
月生まれです。最も生徒数が多い
時代を経たのだと思います。ひと
クラスが四十人以上で、学年に五
クラスありました。今昔の感がし
ます。

運動場は「いわつが丘」と呼ば
れ、高台に上ると勝本港を俯瞰す

ることができました。適当な日陰もあり、運動会の折に家族で弁当を開くのはうってつけの場所です。おふくろさんが買ってくれたバナナを初めて食べました。

当時の勝本中学校には、勝本小学校と霞翠（かすい）小学校の卒業生が集いました。勝本小は主に漁業と商家の子供たち、霞翠小は主に農家の子供たちでした。私は霞翠小卒です。中学に入った当初は言葉や習慣の違いに多少のカルチャーショックを受けました。しかし、いろんな個性を持った新たな友人と出会うことができました。

カラス捕りの名人がいました。春先にカラスの巣を探し出し、高い樹にのぼり、親鳥の攻撃を受けながら幼鳥の一羽だけを捕ってきます。毎日、ミミズを取ってきて幼鳥を育てます。カラスはものすごく人になつのです。彼の巣を探し出す技術はすごかった。

魚釣りの名人もいました。土曜日の午後、二人で伝馬船（てんま

せん）を漕ぎ出して現在のイルカパークと名鳥（ながらす）島の間で、クサビ釣りをやりました。大漁でした。魚釣りに没頭して、ふと気づくと船が流されています。

引き潮が始まったのです。二人で懸命に櫓を漕ぎますが、潮流に勝てない。へとへとになって座り込みました。

遅い帰りを心配した名人の家族が勝本漁業組合に駆け込み、急きょ搜索隊が組まれました。天が原の沖合で、搜索隊は私達の伝馬船を見つ、勝本港に曳航しました。救われた我々は平身低頭です。以来この話はクラス会・同窓会で語り継がれることになりました。中学校の合併は残念です。通学時間が長くなる子も多いでしょう。でも視線を変えれば新しい文化を吸収できるかもしれない。新たな友人が増えるでしょう。新しい出発を期待します。

母の目を盗んでは読書

「箱崎中学校」 斉藤 嘉鶴枝



島の北東部に位置する芦辺町箱崎諸津。十分も歩けば、荒磯釣りでも有名な断崖絶壁の赤瀬鼻。駆け下りれば小さな漁港。水平線も船の行き交いも遠望できる、集落で一番高い場所に立つ家で私は生まれ、高校まで暮らしました。

母校・箱崎中学校までのほぼ四キロメートルの起伏に富んだ道のりは、子供の足で約一時間。しかし、下校時は途中の原っぱや溜池のほとりで仲間と遊んだり、おしゃべりに夢中でした。

家で勉強した記憶は余りありませんが、家事を手伝わせようと、学校からの帰りを待ち構えている母の目を盗んでは、二階の暗い父

の書庫で、大菩薩峠や夏目漱石全集等を読んで、書の中に自分を埋没させていました。

現在では全てにおいて物質面では豊かになっていますが、いじめや自殺、閉じこもり、そして過剰な進学競争に身を置く今の中学生よりも、自然豊かな島で、隣近所の大人や先輩に干渉され、怒られ、励まされ、そして見守られていた私達の中学時代が、ずっと幸福感に満たされていたような気がします。

箱中は箱崎小学校卒と瀬戸小学校卒が中学で一緒にいますが、瀬戸小卒の人と初めての出会いの新鮮さ、ときめき。今も当時の記憶が甦ります。その幸せの拠点となった箱崎中学校が、今度、統廃合によって校名ともどもなくなるのはさびしい限りです。箱中の名

は消えても、その伝統と誇りは、
これからも芦辺中学校の一員とし

て引き続いて欲しいと思います。
(昭和29年卒)

仲間と過ごした思い出は宝物

「那賀中学校」 永本 繁



時代の波
に逆らえず
少子化が進
む日本。壱
岐にも…

壱岐を離れ横浜に五十年弱、耳
に入ってくるのは驚くことばかり
…。あれこれ言うものではありま
せんが、ただ一口に母校・那賀中
学校という校名が消える事です。
つい四年前、壱岐に渡り、浜っ
子である子供・孫含む九人で三泊
四日の旅。じいちゃんの生まれた
自慢の島。中でも特に那賀中学校
のグラウンドの大きさに驚いてい
たので、「この中学校は全島の中学
校十校が集まって、中学体育大会
が年に一度やっている場所だよ」

と自慢しきりでした。

この文章を書くにあたり、今現
在中学全校生徒は何人位と尋ねた
ところ六十人位と返って来まし
た。我々のころは小学校卒業時一
学年で七十六人、昭和三十年の町
村合併で石田中に進学した友人や
ブラジルに移住した友人がいたに
もかわらず中学卒業時にも六十
五人。『那賀中学校』という字は消
えても、仲間と共に過ごした思い
出はこれからも大事な宝物として
残っています。

七年前、第二の成人式（還暦の
祝い）に四十五年振り仲間と再
会し、その日を境に毎年のように
同窓会を全国津々浦々、二泊三日
で実施。バスには那賀小・中学校

同窓会ご一行様の大きな文字と大
きな笑い声が…！衰えを知らない
66・67才は親に大きな感謝をする
とともに、この至福の時間のきつ

かけを作っていた白川壱岐
市長（当時・芦辺町長）に御礼を
申し上げたいと思います。甦る我
が青春に…！
(昭和34年卒)

中学時代の友が人生の支えに

「田河中学校」 森山 実



内海湾
(うつめわ
ん)には小
島、青島、
赤島。沖に

は金城が浮かび、後ろには鹿山の
社。金城から昇る朝日に学舎は映
えて風光明媚な、それは素晴らしい
学校です。

中学校での思い出といえば、そ
の頃、都会の芦辺、漁師町の八幡、
農村の田河というイメージを持つ
ていた私は、芦辺小、八幡小、田
河小からの生徒約三百人と一緒に
勉強することとなりました。田舎
モンの私には勉強が負けるのでは

ないかと、とても気になりました。

私の家は貧しくて授業が終わっ
たら家の手伝いをするのが当たり
前。とても部活などは無理かと
思っていました。が、テニス部に入
ることにしました。本当は野球部
に入りたかったが、グローブを買
えませんでした。

町から来た人達とも仲良くな
り、友達が大勢で、町の友達
の家に泊まりに行ったりした経験は
私にとり驚きの連続でした。夜も
明るい芦辺の街を夜遅くまで遊び
まわったことを思い出します。

中学校時代の友達が、その後の
私の人生の大きな支えになってい

野球に夢中…武中到大敗も

「石田中学校」 長峰 隆徳



石田中学
校時代とい
えば古い古
い話です。

昭和三十三年

年から三年間の出来事です。から、
ほぼ五十年、半世紀前になります。
昭和三十三年といえ、ミス
タージャイアンツの長嶋茂雄さん
が立教大学時代の華々しい実績を
引っさげて巨人軍に入団した年で
す。

ます。将来に大きな夢を抱きなが
ら過ごした中学での生活はとても
大事で、今からではやり直せない
貴重なものです。貧しさのなかに
も楽しい思い出が津波のように湧
いてくる中学生生活でした。
その学校が時代の波にもまれ統
併合の対象になってしまうことは

とても残念だし、校名まで変わっ
てしまうのは、歴史ある田河中学
校卒業生としては理解は出来ても
胸を締め付けられます。
田河中学校はいつまでも田河中
学校だ：ありがとう。

(昭和38年卒、諸吉南触)

野球は小学校の頃から大好き
で、長嶋さんにもあこがれて、子
供達は良く集まって野球をやっ
ていました。

今は町の中で子供はほとんど見
かけない状況です。当時は子供達
がゴロゴロいたので直ぐチームが
出来て町対抗の試合をよくやった
ものです。中学では野球部に入り
ましたが、石田中学校はそんなに
強くなって、久保先生(通称ター
ザン)によく怒られたものでした。

思い出せば当事のクラブやスパ
イクは布製でした。三年生最後の
中学対抗では武生水中学に、記憶
が正しければ16対2で負けて、中
学時代の野球部生活は終わりました。
後日談ですが、中学で負けた
武中のメンバー(北原剛直、横山
登、富永尚元、辻正昭、前田耕一
君ら)とは壱岐高校で一緒に野球
をやり、昭和三十八年には全国大

綱引選手権16年連続出場 〈むぎ焼酎壱岐〉が大健闘！

綱引きの「むぎ焼酎壱岐」チー
ム(玄海酒造後援)は今年三月七
日、東京・駒沢オリンピック公園
体育館で開かれた全日本綱引選手
権に長崎県代表として十六年連続
出場し、強豪相手に三勝三敗と大
健闘した。大会三勝は久しぶりの
快挙で、東京雪州会や長崎県人会
関係者ら約百人の応援団も大い
に盛り上がった。

同選手権は都道府県代表など約
六十チームが揃い、綱引日本一を

会に出場したほどです。これも石
田中学校の野球部時代があればこ
そだと思っています。
ところで石田中学校の名前が残
ることは、校名が消える他の中学
校の皆さんには申し訳ありません
が、とても嬉しく思いますし、益々
いい学校になることを祈っていま
す。

(昭和36年卒)

競う全国大会。

壱岐チームは初戦で大会屈指の
強豪・富山県チームに敗れたもの
の群馬、茨城県チームに快勝。三
勝目をかけた最終戦相手は宮城県
勢で、最後に粘って大逆転を演じ、
綱引きの醍醐味と壱岐魂の底力を
会場全体に見せつけた。玄海酒造
の山内賢明会長は「これで二十年
連続出場への夢が大きく膨らん
だ」と期待を強めた。

(東京雪州会事務局)

企画《がんばってまーす》

非鉄金属用フラックスで70%のシェア 5月には全社員44人で老岐慰安旅行も

ファウンテック社長 万谷 正



アルミニウムは、軽くて外観が美しく、加工性、耐食

性に優れており、リサイクルが可能で、ビール等の飲料缶、住宅の窓サッシ、自動車のエンジン等あらゆる用途に利用されています。

しかし、溶解中に酸化されやすく、また水素を吸収しやすいため、この欠点を改善しないと製品になりません。弊社はこの欠点を改善するためにアルミニウムの溶解時に添加する「フラックス」を製造しています。

弊社は、昭和三十九年十一月にアイコー（株）と米国のロスボロ

ウサプライ社との合弁会社アイコロスボロウ社として発足しましたが、後で述べます事情により平成十一年に私が全株式を取得し、現在の「（株）ファウンテック」が発足しました。本社は東京都千代田区丸の内、東京、名古屋、大阪、福岡に営業所、静岡に技術部、栃木、奈良に工場があり、国内販売及び中国、台湾、東南アジア等に輸出しています。

私は昭和四十六年四月、東京のアイコー（株）に入社しましたが、当時の社長が長崎・五島出身で同県人とのことで、アイコロスボロウ社の本社営業部に配属され、翌年三月に名古屋営業所に転勤。ここでの五年間に営業力・技術力

を身につけ、大切な人脈が得られました。

弊社が開発したフラックス添加装置の「フラックスファイター」は、アルミ溶解・鑄造の一大技術革新といわれ、爆発的にヒットし、フラックスのシェアを30%台まで伸ばすことが出来ました。

ところが、平成十年に親会社のアイコーがメーレンバンクである日本長期信用銀行の破綻により破産に至りました。幸い弊社は業績に問題はなく、取引先の信用もあり、特に金融機関等のバックアップにより、管財人から当会社を買収することが出来ました。また社員全員を継続採用し、社名も現社名に変更して再出発しました。

ただ、旧会社の企業文化は直ぐには転換できませんので、外部の血の導入を考え、他社から優秀な技術系・労務系・営業系の人材を見出して採用し、労務・総務・財務関係のルールも他社の優れた部分を取り入れて強い組織に生まれ変わりました。

経営的には、まず社長の私が長期・短期の戦略を作り、各部門長が戦術を練り、部下に実行させています。特に営業部門に肝に銘じさせていることは、①自己管理②目標管理③コスト意識④時間管理⑤情報分析です。他社より優れたサービスを提供するために、営業部門は「御用聞き営業」「商品説明型営業」から、「課題解決型営業」「提案型営業」に変更し、管理部門を強化し、販売シェア70%を維持して増収・増益を継続しています。

今年五月には、新会社発足十周年記念の「ごほうび」として全社員四十四人で、故郷の老岐に二泊三日の慰安旅行を実施しました。

◆ ◆ ◆
最後に、今回の慰安旅行について社員から寄せられた感想をご紹介します。

——入社後初めての社員旅行で、社長の故郷である「老岐」に行くと聞いたとき、小さな島で二泊三日の旅行は大丈夫なのかなあ

と書いていたが、行ってみると予想とは大違いで、芦辺町の「かねや別館」に泊まって、海の幸の料理に大感激。朝は魚釣り、昼は島内観光と盛りだくさんで大満足でした。筒城浜の海がきれいなこと、一支国博物館で歴史に触れ、

企画(がんばってまーす)

40歳で今の宅建業に転職を決断 人様に喜んで頂ける事を信条に

大京不動産代表 京崎 昇



私は昭和
三十八年、
東京の「浅
草駒形どぜ
う」(現在創

業210年)に集団就職で上京しました。以来、職業こそ替わりましたが、ほとんど関東地方で働き、現在に至っています。

特に駒形どぜうは最初の職場でもありましたし、西も東も分から

「壱岐っ娘」の焼酎工場では焼酎の製造工程の見学など大変興味深いことばかりでした。また機会があれば訪れてみたいと思います。(東京雪州会副幹事長、芦辺町芦辺浦出身)

ない私共を面倒見て育ててくださいました。深い思いとともに感謝致しております。今日に至っても元職場のOB、OG会の事務局として快く迎えてくださりお世話になっております。それ故に人となりの心のつながりがとても大切ではないかと思っています。

現在の宅建業(大京不動産)に従事するに至って約二十二年になります。十人の人がいらっしやれ

ば十の適職があると言われるすが、私の理念としては、いろいろな方との出会いの中で私で良かったと相手の方に思っていただけのような努めさせて頂きたく存じております。反省してみれば今まで必ずしも充分ではなかったとの思いもあります。

不動産は、それぞれの人が、その地に縁があることにより成り立っていると思います。住居にしても職場にしても：私個人としては四十歳にして職業を飲食店から宅建業に移行転換することは大きな決断でありましたが、結果としては納得致しております。

人生は、先にやるかやられるかです。人様に喜んで頂ける事は、まず先に行動しよう、というのが、小さな自分ですが、私の人生訓です。飲食店を営んでおりました時に同郷のよしみで田河中学校の後輩になりますヤクルトスワローズの酒井圭一投手の激励会のこと、文化放送(ラジオ)で午後2時の男と言われていた当時月の家円鏡

師匠(生放送でしたのでテンヤンヤ)のこと、戸田市の友好都市であるリパブル市からの学生のホームステイの受け入れのことなど、いろいろありましたが、過ぎてみればあつという間でした。

故郷壱岐を思うとき、先ずテレビの天気予報で福岡を見ます。今日明日の壱岐の空はどうだろうと、毎日気になります。

壱岐の観光産業においては、自然の形にあまり手を加え過ぎないことが大切だと思います。海産物や農産物、酒類など良い商品をどのようにPRして多くの人々に味わって頂くことが出来るか。この大変な時代に創意工夫をして乗り切って頂きたいものです。

世界中、日本中が金融も経済も縮小傾向にありますが、この状態がしばらく続くと思われます。昔の良かった時にとらわれず、考え方や行動を転換しなければいけない時代に入っていると思います

が、どうでしょうか。
(芦辺町諸吉出身)

壱岐の歴史・史跡の拠点として 一支国博物館など最大限に活用

壱岐市観光協会会長 長嶋 立身



創立以来
 九十三年と
 いう長い歴
 史を誇る東
 京雪州会様

に、深甚なる敬意を表し、先輩諸

氏のご努力に心からご慰労申し上げ
 ますとともに、今日までふるさと
 と壱岐へお寄せいただきましたご
 支援に対しまして、衷心より厚く
 感謝を申し上げます。

さて、壱岐市の平成二十一年度
 観光客延べ数が、前年比約三万五
 千人減少（長崎県観光推進本部資
 料）したことは、疲弊している離
 島経済にとりまして大きな打撃で
 ありますことは、誰もが認めると
 ころであります。観光協会と致し
 ましても、今日までこのような情
 報の分析、あるいは分析後の抜本

的施策等を検討したという経緯が
 ないことは、大いに反省をするべ
 きことと感じておりますし、関東、
 関西方面では、全くといってよい
 ほど知名度が低いのが現実であり
 ます。

このような中で、本年は夏依存
 型の観光地としての脱却を図るべ
 き、長崎県埋蔵文化財センター並
 びに一支国博物館が同時に開館を
 いたしました。全国の都道府県で
 埋蔵文化財センターが島にあるの
 は長崎県だけであり、そして又博
 物館とともに故黒川紀章氏の遺作
 であることに感謝し、これを充分
 に活かした通年型観光客の誘致に
 努めたいと思っております。

壱岐には古代から近世に至る誇
 るべき歴史があり、これを時代ご
 とに集約して学ぶことが出来、時

代ごとの史跡を巡る拠点として、
 埋蔵文化財センター並びに一支国
 博物館を最大限活かしていかなけ
 ればならないと考えております。

壱岐が自給自足出来る島である
 ことは、全国に誇るべきことであ
 ります。修学旅行には、安全・安
 心で、自然を活かした農業・漁業
 の様々な体験学習が出来る島とし
 て、一般の観光客には、歴史と史
 跡の島であり、食の豊かさを満喫
 出来る島として、来る十二月八日
 から十四日までの一週間、東京都
 庁第一本館二階の「全国観光PR・
 イベントコーナー」で「壱岐市観
 光PR並びに特産品販売展」を開
 催いたします。

雪州会会員皆様の、ふるさとを
 懐かしんでのご来駕をお待ち申し
 上げております。
 最後に、東京雪州会様の創立百
 周年に向けての益々のご発展をご
 祈念申し上げます。

神々が宿る島壱岐・古代日本の特別な存在の壱岐

日本神道発祥の地・月読神社
 七住吉の一つ、壱岐住吉神社
 パワースポット巡りで心を癒す島

壱岐市観光協会
 会長 長嶋 立身



〒811-5135 長崎県壱岐市郷ノ浦町郷ノ浦281-6
 TEL 0920-47-3700 FAX 0920-47-5302

〈終戦から65年 そのとき私は〉

敗戦の夜、兵達と民謡で開放感

「ギーシャハウス」の案内も



大久保 芳勝

あれから
六十五年が
過ぎ、終戦
の日が又
やってき

た。私は終戦という言葉が嫌いで
す。敗戦、その方が実感的です。

当日は勤労奉仕でなく、学校で
の教練だった。匍匐（ほふく）前
進から突撃まで練習した。何故か
学校から早く帰ってよいという指
示が出たので帰路についた。途中、
郷ノ浦の八畑の民家で、脱帽の将
校がラジオに聞き入っていた。何
事かと一寸足を止めて聞いてみた
が、ピーピー、ガーガー、時折言
葉が入るくらいで何が何やら解ら
ずその場を去った。

志原村役場から久喜線に入り小
原橋を渡った所に兵隊達が座り込
み浮かぬ顔をしていた。何だ、こ
の非常時に、と思ったら岡部村議
が大声で「戦争は負けたゾー」と
喚き歩いてきた。そこで、あの八
畑のラジオが終戦の詔勅だったの
かと気がついた。

急いで我が家に戻ると、我が家
の兵隊達も緊張の解けた顔をして
いた。我が家の兵隊とは、敗戦間
際の軍は兵舎を建てる余裕などな
く、釘山触で、我が家と久間家の
隠居棟が兵舎として徴用され、そ
れぞれに五十人の兵隊達が駐屯し
ていた。その兵隊である。

門口には衛兵が立ち、私達の出
入りの際には必ず敬礼を受けた。

庭では銃剣術が行われていた。勿
論竹槍である。起床から消灯まで
兵隊達と一緒に兵営生活を強いら
れていた。それぞれの兵達につい
ては種々エピソードがあるが、そ
れは又他日。

警戒警報、灯火管制もなくなっ
たその夜は、なけなしの配給の灯
油を注ぎ、ランプとカンテラの下
で、兵達のお国自慢の民謡で一夜
を過ごした。翌日から三々五々と
兵達の帰郷が始まった。最後に
残った真木志という新兵が、一人
柱にもたれて泣いていた。「どうし
た」と聞いたたら「帰る所がない」
という。この新兵、種子島の出身
だった。当時、種子島は全滅とい
う噂だった。我々の部落には電灯
がなかった。

勿論、ラジオもなく、噂だけが
情報伝達の手段だった。「このまま
此処に居てもいいよ」と言ったら
大粒の涙を落とした。翌日、「博多
に親戚があるので其処まで行っ
てみる。ダメだったら戻ってくる」
と言って出かけた。戻って来な

かったので無事帰ったことだろ
う。後年、私が上京してから、こ
の新兵が我が家に訪ねて来たと聞
かされた。

集落から兵達がいなくなると、
何となく不安になった。どこから
ともなく、米軍が上陸し、殺戮
（さつりく）が行われていると噂
が流れて来た。地域で話し合い、
崎辺の岡部村議宅に逃げようとい
うことになった。岡部邸は集落の
外れの森の奥の一軒家だった。藪
蚊の大群に襲われながらの逃避行
も二晩で終わった。

二日程過ぎて学校に行ってみ
た。丁度その日、米軍が郷ノ浦に
上陸して来た。MPが島の武装解
除を行い、どこからともなく鉄兜、
飯盒（はんごう）、水筒、軍服、軍
靴、銃、剣などが現在の壱岐高校
の運動場に山と積まれ、ガソリン
をかけ、火がつけられた。当然我々
が教練で使用した銃機庫の三八式
歩兵銃も、機関銃も一緒に焼かれ
てしまった。

燃え上がる黒煙が一層黒く感じ

た。銃器の残骸を見た時、やりきれないむなしさだけが残った。

町に下ると、丸腰の米兵が所々に屯していた。生まれて初めて見る外国人である。目は青く髪は茶色、何とも奇異の目で見ていた。一人の米兵が話しかけてきた――「ギーシャハウス」

この野郎と思ったが、刃向かう気力はとうに失せていた。「ワンスモー」「ギーシャハウス」。一寸考えて芸者のことかと解かった。「オーケー カモン」、米兵は着いて来た。ある芸者置屋に案内すると「サンキュー」と言つて私の手に日の丸の煙草を一箱握らせ暖簾の奥へと消えて行つた。この煙草、ラッキーストライトという。

あれから六十五年過ぎた今年の五月、東京雪州会主催の「ふるさと沓崎ツアー」に参加した。葬式か法事以外は帰つたことのない古里へ観光客として帰ることが出来た。目線を変えると故郷の良さが又一段と感じられた。白砂青松100選の一つ、筒城浜、以前は防

風林などなく、大鳥居は勿論、山裾の子鳥居の所まで砂浜だった。

季節には浜ボーフが芽吹き、おひたしにして食べたことがあった。その味は忘れてしまった。思い出されるのは松林の中にオートジャイロの格納庫作りに勤労働員されたことである。

島のシンボル岳の辻に登ると、頂上に一巡り円帯塚が掘られ、沓岐要塞司令部の防空監視所があった。黒崎の砲台、構築に韓国人の強制労働はなかっただろうか。もし犠牲者があつたのであれば近くに慰霊碑を立て弔うべきである。長野県松代の大本営地下壕の入り口には慰霊碑が立っている。

何処に旅しても戦争の傷跡を探している。私の中から戦争という二文字が消えることはありません。六十五年前の、あの日も暑かった。ともあれ、ふるさとツアーを企画された役員の皆様に感謝しております。

(郷ノ浦町志原出身、昭和四年五月生まれ)

終戦時は山形県へ工場疎開 戦後は自営業の米屋を経営



私は箱崎
本村触の出
身ですが、
戦時中、荻
窪の中島飛

行機工場で働いていました。終戦の前年、山形県鶴岡市へ工場疎開となりました。機械の据付けも終わり、作業も出来るようになった折、終戦となりました。

私は寮長をしておりましたので、全員の帰省を見届けてから東京都杉並区西荻窪の実家へ帰宅。職がないので二、三箇所をお願いしておりましてところ、「米の配給所はどうか」との話が出て、早速就職しました。

何年か過ぎて個人企業が認められ自営業となり、以来、細々ながら米屋を営むことになりました。

高下 秋雄

終戦から六十五年が過ぎ、戦中戦後、そして日本の高度経済成長時代を経て、いま思い出は尽きません。私は現在九十四歳ですが、当時の箱崎の学校仲間にはみんな既にいません。寂しい限りですが、余生を出来るだけ元気に過ごしたいものです。

雪州会の皆さんも今では知った人はほとんどいなくなりました。
(大正五年一月生まれ)



「韓国のシユバイツァー」を生んだ大農場主 熊本利平翁

森谷 正規



今年は日
韓併合一〇
〇年に当
り、新聞で
関連する記

事をしばしば見かけますが、八月二十四日付の毎日新聞で、嬉しいことに熊本利平さんが取り上げられていました。石田出身の熊本さんは、ご存知の方も多いと思いますが、戦前、朝鮮半島最大と言われるほどの大規模農場を持つに至るほど大成功した人です。

大正末から昭和にかけて、巨額の資財を投じて壱岐の教育に貢献されたのは広く知られています。が、毎日新聞の記事では、韓国（当時は朝鮮）においても熊本さんは朝鮮人農民に大きな寄与をされていたことが明らかにされました。

た。

日本の植民統治時代には、日本政府は朝鮮南部は農業地帯と位置づけて米の生産を大いに奨励しました。そこで、数多くの移住した日本人が主に経営に携わり、貧しい朝鮮農民を雇って耕作をさせました。熊本さんはその中で最大の農場主であつたのです。

当時の農民はとても貧しく、病気になつても医療はほとんど受けられない状況でしたが、熊本さんは農民のための診療所を設けました。その医師に招かれたのが、李永春（イ・ヨンチュン）博士でした。ソウルの大学研究所で働いていた優秀な医師を招聘したので、李博士は「農村衛生研究所」の設立を要望し、熊本さんはそれを受け入れました。農民の衛生指

導を実施して、病気を予防しようというもので、当時としてはまさに画期的なことでした。

ところが、日本は間もなく敗戦となつて、熊本さんの農場は没収されて、研究所の構想は実現には至りませんでした。しかし、李博士は戦後、診療所を広げて農村医療の専門病院とし、無料診療や健康指導など農民の医療に大きな努力を続けました。その功績は非常に大きく、李博士は後に「韓国のシユバイツァー」と呼ばれるほどに傑出した人物になりました。そのきっかけは、熊本利平という日本人の農場主がつくつたのです。私は利平さんと二つのつながりがあります。一つは印通寺の熊本邸の目の前に住んでいて、散歩される老年のお姿をしばしばお見受けしました。もう一つは私の祖父が朝鮮に移住して、熊本さんには及びもつきませんが、かなりの規模の農場主になったことです。小学校の遠足で、町中を出てからわが家の土地だけを歩いて行つて帰れ

たほどでした。

なぜ一代でそれほどの土地を持てたのか、朝鮮の歴史を学んでよく分かりました。統治に当たつて朝鮮総督府は、農民に自分の土地を申告せよと命じましたが、所有権がよく分からなかったり、文盲であつたりで、多くの土地が申告されず、総督府はそれを没収して日本人にとめて安く払い下げた事実があります。それはいまも、韓国人にとって「恨」の一つでしょう。

壱岐もこれからの発展のために、韓国、中国との付き合いを一層増やす必要があります。それに際して、確かに良いこともありますが、多大の損失と苦痛を両国に与えた事実があることを歴史から学ばねばなりません。

（東京雪州会名誉会長・放送大学名誉教授・技術評論家）

〈私の東京勤務6年間〉

情報収集に明け暮れる毎日 寸暇に夫婦で趣味や旅行も

前長崎県東京事務所課長 篠崎 靖

長崎県東京事務所の6年間は大変お世話になりました。今思い返してもアツという間の東京暮らしでした。スリリングに富んだ仕事は、通常の県庁生活とはまた異なる日々の連続でした。離れた場所で長崎県を見つめ直すことも、とても大事なことだと思います。また、永田町や霞が関にほぼ毎日出かけ、えっ！そんなことまで県東京事務所はしているの、と恐ろくびつくりされるようなスリリングなこと？もしながら、(決して十分ではありませんでしたけれども)毎日、情報収集活動に明け暮れておりました。

仕事の傍ら、プライベートでも興味のおもむくまま、色々なこと

にも手を出し、昼も夜も土曜日も日曜日も、気ぜわしく動き回っていました。自分自身のライフワークにしようと思っている「ソーシャルビジネス」の研究家の方々のお話を聞きにいたり、その延長線上で、民間団体の勉強会に参加したり、まちづくりの方々と懇意になって葛西臨海公園の花畑でヒマワリの種まきに行ったり、はたまた、中高年の第2の人生を応援するNPOの事務局長さんと仲良しになったり、私自身も東京のNPOの理事になり、長崎ツアーを企画してNPOのみんなと長崎や五島に行ったり、NPOの機関誌の編集作業を毎号手伝ったり、別の団体のフリーペーパーの編集

にも関わったり、楽しい日々でした。長崎西高OBの皆さんその他の方々と「民間版東京事務所」を作ろう！みたいな活動にも参加させていただき、私自身は大して役には立てませんでしたけど、これは絶対実現化してほしい、と今でも思っています。東京は、動けば動いた分、否、時としてそれ以上に反応が返ってくる、おもしろい街でした。

こんな風に書くとも単身赴任だったの？と思われるかも知れませんが、実は奥さんと一緒に上京していました。少ない空き時間を見つけては一緒に色々な地域へ旅行に出かけました。印象深かったのは、富山県の八尾市。「越中おわらの風の盆」で有名なまちです。あの哀愁を帯びた胡弓の調べにのせて演じる踊りもさることながら、この町のたたずまいがとにかく気に入りました。ほぼ毎年足を運んでいました。私は、今、長崎県観光振興推進本部という職場に在籍していますが、観光まちづくりというのは、

地元の人からは離れたくない、そして、よその人からは住んでみたい、と思われるまちを地域の人たちと一緒にやってつくることだと思っています。八尾はそんな感じがする町で、九月になるのがとても楽しみでした。こういうまちを目指し、がんばりたいと思います。最後に、出張で皆様と東京でお会いすることもあると思います。お声をかけしますので、またお話をさせてください。お世話になりました。ありがとうございます。

(宍岐市芦辺町芦辺浦出身)



〈趣味あれこれ〉俳句

ふる里思う気持を句に込めて

うまか料理「壱岐」社長 馬場喜代治



私は俳句を始め、まだ二年に過ぎません。

今では俳句

の題材を求めて吟行会にもよく出かけます。俳句の面白さを知るにつけ、その奥深さを実感する此の頃です。

俳句を始めた動機ですが、朝、犬との散歩の途中、それまでは気づくことのなかった（特にふる里に咲く）小さな花を見つけた時、不思議な事に、ふる里を今までより強く恋しく思う自分に気づいて、この気持を何かに残せないかと感じたのがきっかけです。

詩や写真とか、何か解らないままにいたのです。そんな時、ご来店のお客様とのやり取りのなか

がない」と言われたのが、私の俳句でした。

その時、初めて参加した私のふる里壱岐の話を皆様が笑顔で聞いて下さいました。それから月一度の句会が待ち遠しいくらいに楽しい日々です。私の長兄などは「麻疹にかかっちゃると」と笑っています。

プラス面も多いです。特に難しい漢字の読み方、深い意味に戸惑いながら、教えていただける喜び、新しい事との出会いなどがプラスと言えましょう。それに私の駄句でも読んでくださり、壱岐に家族で行って下さったお客様が現れたことに喜びを覚えています。三年連続で行かれた方もいます。

吟行会でのことですが、芭蕉の句碑を訪ねる日光へのバスの中で、河合曾良（芭蕉の高弟で壱岐勝本で客死）の話で盛り上がりました。そこで「私のふる里壱岐にはその方のお墓がありますよ」と言いましたところ、皆さんは驚いた様子でした。

今年五月に東京雪州会と東京渡良会のふるさと壱岐ツアーに参加した際にも、私は曾良のお墓にも参ってきました。最後に最近の私の句をご披露します。

○長崎忌 あの日を語る人も逝き
○かりがねの 波濤打ち寄す 鳥に鳴く

○愛犬の 足取り重き 残暑かな

（渡良出身）

馬場さんの壱岐料理

NHK総合テレビで放映…

渡良出身の馬場喜代治さん経営の季節料理店「壱岐」（東京中野区）で、馬場さんの手による壱岐料理がNHK総合テレビで、八月二十七日午後六時十分からのゴールデンタイムに郷土料理として放映されました。品目名は壱岐でお馴染みのキュウリを素材とした「キュウリ ぜえー」。

馬場さんが手際よく料理する様子や、その作り方など素材を含めて紹介、われらの壱岐郷土料理を全国区に広めました。

雪州会のふるさと壱岐ツアー好評 歴史と自然景観に島外者も感動！



ツアーに参加した一行（猿岩の前）

東京雪州会は五月三十～六月一日まで二泊三日の日程でふるさと壱岐ツアーを実施しました。原の辻に一支国博物館と長崎県埋蔵文化財センターが三月に開館したのを記念して企画したもので、四十五人が参加。参加者の約半数は島外出身者。今回初めて壱岐を訪れ

た島外関係者は一様に歴史的文化遺産と自然景観の素晴らしさを肌で感じて「また機会があれば夫婦や仲間と是非訪問したい」と感想を漏らすなどとても好評でした。

東京雪州会のふるさと壱岐ツアーは平成十八年度以来四年振り。三十日の到着日には芦辺港で久田賢一壱岐市副市長や末永健次壱岐商工会長さらに前日に帰省していた東京渡良会の皆さんが幟や横断幕で大歓迎。

一支国博物館に直行、須藤正人館長による歓迎の挨拶を受け、独特の建物と、館内に展示されている二千年以上前の弥生時代の一支国出土品や県内の埋蔵物展示品さらには弥生時代の生活風習の模型などに感嘆。展望台に上れば原の辻遺跡群が一望でき、しばし古代一支国を偲ぶ。夜はホテル見学に。

二日目の三十一日は猿岩、黒崎砲台跡や島北東部の古墳群を見学し、緑豊かな「歴史と自然の島」を体感。月読神社に参拝。さらに松永安左エ門記念館では松永翁の足跡に触れ、改めて翁の偉大さを実感。玄海酒造の酒造工場では、山内昭人社長の説明を受けた後、焼酎の「試飲」に参加者の顔も自然に赤くほころぶ。

二日目の夜には宿泊先の壱岐島荘で雪州会の山内賢明会長ら参加者全員と壱岐の関係者による合同懇親会を開き六十五人が参加。久田副市長、牧永護壱岐市議会議長、山崎直樹長崎県壱岐振興局長、長嶋立身壱岐市観光協会長、末永壱岐市商工会長らが出席。

最終日の六月一日は勝本の朝市見学。辰の島クルーズでは蛇ヶ谷の断崖に一同息をのむ。その後、住吉神社を参拝し、同境内に東京雪州会の寄贈で植樹されている「やまざくら」を見学。松本弘宮司や壱岐市林業研究同志会の市岡賢会長らの出迎えも。「さくらの花

の時期にぜひもう一度来たい」との声に、雪州会関係者も浄財を寄贈した喜びをかみしめた。「雪州会の活動と郷土愛には驚いた」と、島外参加者の声も。

今回は雪州会の会員の方が多くの友人・知人を誘って参加いただき感謝します。またツアー企画担当の山口永人副会長と坂井伸州会計担当の尽力も見逃せない。（東京雪州会事務局）

赤湯天然温泉

国民宿舎

壱岐島荘

〒811-5556 長崎県壱岐市勝本町立石西麓 101
国民宿舎壱岐島荘

TEL(0920)43-0124 FAX(0920)43-0125

〈二支国への旅〉雪州会ツアーに参加して

焼酎に酔い・自然に魅了

関 雅晴



話は昨年
の十月の
頃。蒲田の
スナック
(さくら)

で飲んでの雑談から。ママ(広田
ケイ子)さんの故郷は何処? 壱
岐って何処? 島国何がある?

話が变わってツアーに参加して
行くという。何処のツアーかと聞
けば「東京雪州会」の主催。雪州
会ってどんな会? 東京雪州会は壱
岐出身者の集まりで、雪州会の由
来は壱岐の浜辺の砂が雪のように
白いからとか。本当に白いのかな
あ? 何だかんだ言ってツアーは
全部で四十五人の大人数に。

壱岐どうやって行くの? 福岡
までジェット機、博多港から
ジェットフォイルで一時間で壱岐
に着くよ。島だ、海だ、鯨だ、マ
グロだ、サメだと会話も弾む。

時は五月三十日から二泊三日の
旅。泳ぐぞ、まだ寒いぞ。羽田八
時集合、まずは無事を祈ってレス
トランにて乾杯だ。やはりノンベ
イ仲間、旅行はこうでなくちゃ。

さあ、行くぞ! メンバーは当
初スナックのママ、本多さん、山
田さん、私の四人だけの予定が、
特別参加で池谷夫婦と芳子さん
も。参加することになった皆はノ
ンベイの仲間達。

福岡に無事着く。ラーメン屋でお
祝いだ、乾杯ラーメンのトッピン
グ、辛く旨かった。壱岐行きの
ジェットフォイル、酒が売ってな
い。何故だ。一時間我慢。寂しい
。壱岐の港(芦辺)に着く。雪

州会大歓迎の垂れ幕に目を見張
る。地元の方からご挨拶、感激。

宿に着く、まず一杯、温泉だ、
宴会だ、私達の前に綱引きの青年
団が揃う。ビールがない! 焼酎が
並ぶ。まずは焼酎で乾杯。青年団
がビールを出した、良かった。こ
れで青年団達とも話が弾む。歌あ
り、芸あり、楽しいひと時だった。

壱岐に来てまず一番は、玄海酒
造見学ではないか。社長さんの
ユーモアある説明もよかったが、
「ただ酒」が飲めること。バスガ
イドいわく。20度の酒はまだ子供
の酒、大人になったかつたら33度
を飲め! そこで33度スパーゴー
ルド壱岐を試飲した。旨い! 一本
お買い上げするもバスの中で全部
飲まれてしまった。残念!

次に辰の島巡り。さすがに綺麗。
潜りたかった。しかし此処は寒い。
あと松永安左エ門翁の記念館。
電力王という伝説の人だ。そこ
には線路もないのに電車がある。不
思議。住吉神社の山桜の植林を見
た。この桜、東京雪州会が寄贈し

たという。雪州会は凄い会だと痛
感。

酒もよく飲んだけれど、これだ
け覚えてきたから十分。夏行きた
かった。蒲田スナック(さくら)
で反省会。誰も反省なし。ただ、
良かった、良かった!

(東芝勤務、山形県天童市出身)

憩いのオアシス
壱岐いきスナック

さくら

JR 蒲田駅西口から5分

〒144-0051

東京都大田区西蒲田7-10-5

電話 03-5711-5923

広田ケイ子

東京雪州会会長に牧山康敏氏

東京雪州会は十月七日の定例理事会で山内賢明会長が任期満了に伴い退任し、新会長に牧山康敏副会長兼幹事長を選任しました。山内会長は名誉会長に就任。また幹事長には久原順一氏（理事）、副幹事長に万谷正氏（同）を選任。さ

らに前田太郎氏（理事）の副会長を始め、長嶋一雄、長嶋文満、山田節一、下条司、大久保正孝、浅井恵子の各氏ら新理事も多数選任しました。いずれも任期は二年。

（26面に役員一覧）

関東初山会総会 和気あいあいで

第十四回関東初山会が平成二十一年十一月十五日昼、秋晴れのもと東京・青山の「ホテル はあとん 乃木坂」で開かれました。初山小場の長嶋文満幹事長の司会進行で始まり、長嶋一雄会長の挨拶に続いて東京雪州会副会長長牧山康敏、玄海酒造常務（現専務）山内博達、東京渡良会会長前田太郎の各氏ら来賓から祝辞がありました。

事業報告などを承認した総会に

続き懇親会では壱岐の麦焼酎を酌み交わしながら故郷での若い頃の思い出や同級生同士の会話、さらにカラオケや福引抽選会など楽しいひと時を過ごしました。

当会は今年秋には節目となる記念すべき十五回目を迎え、総会は十一月二十一日です。これからも関東に在住する初山の東、西、坪、若松触出身の人々が、年に一度集まるこの関東初山会を活性化するために若い人を発掘していきたいものです。

（関東初山会会長 長嶋一雄）

第2回壱岐商高関東同窓会が盛況

東京及び近県の壱岐商高卒業生が集まり、昨年、壱岐商高関東同窓会を立ち上げ、今年は第二回総会を八月二十九日に代々木の中華料理店で盛会に開きました。

今年は参加人数が三十一人と、昨年の二倍に増え、賑わいました。

素朴に、壱岐から取り寄せたイカの一夜干しを焼き、海の香りをか

ぎながら、乾杯に始まり、「壱岐の島検定」と称した壱岐に関するスライドショー（これが意外と楽しくもあり、難しくもあり、大うけでした）、次に、人に歴史ありで、各人の思いを大切にしたいと、全員の自己紹介。語れば長く…。

最後は輪になり、肩を組んでの高校三年生の合唱で結びました。万歳、バンザイ、ばんざい。こうして四時間もの時間が、あっという間に過ぎてしまいました。

当会は会員の親睦・交流を図り、母校の発展・向上に資することを目的とし、故郷を離れて関東に生きる壱岐商高出身者の心の支え、癒しの場となるようにすることが、大きな目的です。

（ホームページ <http://ikishokan.touhp.infoseek.co.jp/index.html>）
（壱岐商高関東同窓会会長 高山裕子）



東京雪州会 平成22年度の主な活動 (平成21年10月～同22年10月)

- 壱岐市活性化協議会**(平成21年10月31日:
品川プリンスホテル＝山内東京雪州会会
長を始め、壱岐市から白川市長、山口県
議ほか各主要団体トップ5人、長崎県関
係、福岡、関西、東海の各壱岐の会会長、
九州郵船など総勢25人が参加。一支国博
物館のオープンなどに合わせた壱岐の活
性化や課題について活発かつ真剣に協
議。
- 平成21年度総会開催**(平成21年11月1日:
東京プリンスホテル)＝壱岐からの来賓
を含め総勢200人が出席、大盛況。女性の
参加も目立つ。
- 小田原市の松永安左衛門翁の旧居宅「老
樗荘」見学**(平成21年11月20日)＝見学
会には雪州会から山内会長ら16人が参
加。今年は記念館開館50周年に当たり、
館内には翁ゆかりの書や書簡、茶器類な
ど貴重品が多く展示され、一行は松永翁
の偉大な足跡の一端に触れ感銘する。
- 雪州会役員懇談会**(2月2日夕:交詢社)
＝執行役員を始め、森谷名誉会長、坂江
顧問ら21人出席。当日は壱岐出身の平山
泰朗衆院議員(東京選出)と山本剛正衆
院議員(福岡選出＝山本紘子雪州会副会
長のご子息)を招待して意見交換。今後
の会の運営についても。
- 国際食品・飲料展参観**(3月2～5日:
幕張メッセ)＝同展には壱岐から玄海酒

造が出展し、全体では世界各地から2,510
社が参加。雪州会は16人が3日に参観。
玄海酒造のむぎ焼酎ほか世界の銘酒や食
品を試飲・試食を満喫。参観後に懇親。

- 全日本綱引選手権16年連続出場の〈むぎ
焼酎壱岐〉チーム応援**(3月7日:駒沢
オリンピック公園体育館)＝雪州会や長
崎県人クラブ関係者ら約80人参加。今回
は6戦中、初の3勝を挙げ、大健闘。20
回連続出場に弾みも。
- 長崎ビードロ会主催「ハタ揚げ大会」**(4
月29日:大田区の多摩川緑地公園)＝今
年も東京雪州会から約70人が参加。お孫
さん連れなど家族での参加で大いに賑わ
う。
- 雪州会執行役員会**(5月7日:交詢社)
＝12人が参加。上期の収支・活動報告。
10月31日(日)の雪州会総会への対応な
ど協議し、250人の参加を目指す。
- 雪州会主催のふるさと壱岐ツアー実施**
(5月30日～6月1日の2泊3日)＝総
勢45人が参加。うち約半数が壱岐島出身
以外の人。3月の一支国博物館の開館記
念として4年ぶりに実施。島外参加者にも
大変好評。
- 雪州会上期理事会**(6月30日:ホテルは
あと いん 乃木坂)＝41人参加。上期の
活動・収支報告など。壱岐に植樹の寄付
了承。総会に250人の動因を目指す。
- 雪州会秋季執行役員会**(9月17日:交詢
社)＝22年度活動・収支報告など協議。
新会長を含む役員人事案など内定。
- 雪州会秋季理事会**(10月7日:ホテルは
あと いん)＝22年度活動・収支報告など
承認。新役員人事を承認、正式決定。総
会に向け全力で取り組むことに。

壱岐高東京同窓会 会長に長峰隆徳氏

関東地区在住の壱岐高校同窓生
の集い「壱岐高東京同窓会」は六
月二十六日、港区青山の「ホテル
はあと いん 乃木坂」で会員六
十余名が参加して盛会のうちに行
われました。当日は故郷壱岐より
壱岐高同窓会副会長の西村善明
氏、ゲストとして壱岐商高関東同
窓会副会長の吉野弘一氏が参加。

今年は役員改選期に当たり久原
順一会長が退任し、新会長に長峰
隆徳副会長(石田出身)が就任、
今後二年間、新執行部で同会の運
営を行うことになりました。総会
に続く懇親会では、ビンゴゲー
ムの景品に壱州の豊富な海の幸・山
の幸が用意され、また人気の焼酎
もありでゲームも最高潮になる頃
には、壱州弁と笑いの渦で一杯と
なり賑わいました。

(壱岐高東京同窓会幹事長

森山実)

平成23年度 東京雪州会の役員一覧

〔執行役員〕				幹	事	広田ケイ子	
会	長	牧山	康敏	同	同	山田	義則
副	会	山口	永人	名	譽	立石	公博
	同	前田	太郎	同	同	森谷	正規
	同	山本	絃子	同	同	山内	賢明
幹	事	吉野	弘一	顧	問	坂江	博見
副	幹	久原	順一	同	同	山内	偉生
会	事	万谷	正	同	同	大久保	祐光
	同	坂井	伸州	同	同	大杉	一雄
監	事	長田	玲子	同	同	柴山	繁
	同	園田	靖彦	同	同	竹富	鉄一
		長峰	隆徳	同	同	蔵方	肇

〔理事〕(50音順)

浅井 恵子	坂本 幸治	富谷 栄子	堀江 輝男
岩崎 和弘	下條 功	豊永 正臣	三浦 静夫
浦川 祐次郎	下条 昭二	中村 福一	深山 祐助
浦瀬 博之	下条 司	長岡 秀星	村井 有
浦富 文夫	住田 琢彌	長嶋 一雄	村上 安弘
大久保 寿雄	高田 英志	長嶋 文満	山内 輝彦
大久保 正孝	高山 裕子	永田 美德	山口 義行
大久保 芳勝	竹尾 喬	永本 繁	山田 節一
加藤 恒範	竹嶋 商	野本 一夫	横山 登
川元 二郎	田中 忠義	野本 政次郎	横山 致和
川元 忠和	田中美登子	野元 宗敏	吉川 利海
神田 仁	田原 昭二	馬場 喜代治	米光 信博
京崎 昇	塚本 武利	馬場 眞佐子	若宮 強
後藤 正彦	寺田 政輝	日高 克也	
斉藤 嘉鶴枝	徳永 光子	平岡 仁江	
	殿川 茂	干田 弘義	

長崎県人クラブ理事長 山内賢明氏が就任



長崎県人
クラブは五
月十七日の
定時総会
で、空席と

なっていた新理事長に東京雪州会
会長（現名誉会長）で玄海酒造会
長の山内賢明氏を選任しました。

同クラブは長崎県出身者の親睦団
体で、四十年の歴史があり、経済
人を始め多くの一般会員が積極的
に活動しています。

壱岐市出身の電力王・松永安左
エ門翁の薫陶を受けた故今里広記
氏（日本精工会長）が中心となっ
て発足、長崎県出身者の情報交換
や親睦、地元長崎県に対する協力
などを目的に活動も年々活発に
なっています。山内氏は長崎県酒
造組合の会長も務めるなど県内
でも幅広く活躍していることから選
任されたもの。

第56回東京渡良会も盛大に



東京渡良会総会及び懇親会が七月十八日、東京・六本木の「ホテルはあといいん乃木坂」で、壱岐からのゲスト山口壮三県議、ふるさと渡良会会長野田泉御夫妻、畑顧問、長岡信一副会長、呼子市議、濱画伯、関西から東京渡良会特別顧問の大宝グループ会長野田武臣

氏、東京雪州会から山内賢明会長ら、関東初山会から浦瀬の各氏ら多数の参加を得て盛大に開かれました。高田幹事長の司会、塚本副会長の開会宣言で始まり、前田太郎会長が五月二十九日の壱岐における地元渡良会との交流会の御礼を兼ねて挨拶。

総会行事も無事終了し懇親会に移り、壱州弁丸出しで壱岐での「フレメ」のような実に楽しい宴になりました。

懇親会での司会はプロのマジシャンで米カーネギーホールで公演し好評を博した玉置慶子さんと、椎名伸子さんが担当。玉置さんにはアトラクションでも数多くのレパトリーの中から得意技を数点披露して戴きました。

(東京渡良会幹事長 高田英志)

<http://www.amagokoro.com>

Web

あまごころ本舗

検索



海産物製造・卸・直売・専門店が 厳選の海の幸をご提供いたします。

あまごころ本舗株式会社

代表取締役社長 村田 妃富美

本社 TEL 092-281-6224 〒812-0020
東京支社 TEL 03-5820-1788 〒103-0004
壱岐支社 TEL 0920-47-4580 〒811-5132

福岡県福岡市博多区対馬小路11-15
東京都中央区東日本橋2-9-2東日本橋ビル2F
長崎県壱岐市郷ノ浦町東567



透き通る壱岐の海へGO！ オーシャンビュー客室は早めのご予約を

壱岐の大自然を体験メニューで満喫できる宿
無人島までシーカヤック&シュノーケリングや釣り筏での魚釣りは毎年リピーターも多い。
コテージやキャンプ場もあるので、グループやファミリーに大人気の施設です。

①宿泊料 (1人1泊2食)	大人	7,000円	小人	4,600円
②コテージ1棟 (定員6名)	1泊	1,500円		
③シーカヤック	大人	3,000円	小人	2,500円

壱岐出合いの村

長崎県壱岐市郷ノ浦町新田触492番地
TEL 0920(46)0789 FAX 0920(46)0141



重家酒造合名会社

TEL 0920-44-5002
FAX 0920-44-8401
〒811-5214
香岐市石田町印通寺浦200番地
ホームページ
<http://www.omoyashuzo.com/>
香岐の島の小さな蔵、重家酒造



(名)。か め で
仕込む伝統的
な製法を守り
続 け て い ま
す。銘 柄 は 雪
洲・ちんぐ・村
主・筒 城 浜・確
蔵 があり、そ
れ ぞ れ 特 徴 の
あ る 味 に 仕 上
げ て い ま す。



故郷のお土産に
・香岐の銘菓 加 寿 ま き
・焼酎入りケーキ

土 肥 製 菓

〒811-5511 香岐市勝本町仲触471
電 話 0 9 2 0 - 4 2 - 0 2 0 7
F A X 0 9 2 0 - 4 2 - 2 3 7 2

風流うどん・そば料理

株式会社 歌 行 燈

伊勢丹会館店 長 砂 金 哲 也
店

伊勢丹会館店
〒160-0022 東京都新宿区新宿3丁目15-17
伊勢丹会館8階
電話03-3341-1116

1984年、香岐に昔からある6つの焼酎蔵が集まり、
香岐の島の中央の小高い丘に、香岐焼酎協業組合が生まれました。
それから26年間、江戸時代より香岐に伝わる伝統的な技法を守ると共に、
常に新しい技術を取り入れながら、「香岐焼酎」の美味しさを追求してまいりました。
この度、さらなる飛躍と香岐焼酎の発展を願い社名を変更いたしました。
これまで以上に、みなさまに愛される香岐焼酎の製造・販売に努めてまいります。
今後とも香岐の蔵酒造をよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 篠崎 修

受け継がれてきた四〇〇年の伝統。

2010年10月1日より、香岐焼酎協業組合は

「香岐の蔵酒造」

へ生まれ変わります。



壱であること。
麦焼酎の歴史を語る上で、壱であること。
米麴の旨味と麦の風味を問う上で、壱であること。
飲む人に愛される上で、壱であること。

香岐の蔵酒造株式会社

〒811-5753 長崎県香岐市芦辺町湯岳本村触520
TEL 0920-45-2111 FAX 0920-45-2133
<http://www.ikinokura.co.jp>

お酒は20歳を
過ぎてから、
楽しく適量を。

麦焼酎発祥の地『壱岐』

歴史の島 伝統の味 本格焼酎

2010年度モンド・セレクションにおいて
2年連続で最高金賞を受賞しました。



松永安左エ門翁
720ml (43度)



壱岐スーパーゴールド
720ml (22度)



壱岐グリーン
720ml (20度)



むぎ焼酎壱岐
1.8L (25度)

むぎ焼酎 **壱岐** 玄海酒造株式会社

代表取締役会長 山内 賢明 代表取締役社長 山内 昭人 専務取締役 山内 博達

〒811-5125 長崎県壱岐市郷ノ浦町志原西触550-1

TEL.0920-47-0160 FAX.0920-47-0211

www.mugishochu-iki.com

◎お酒は20歳になってから。 ◎お酒は適量を。 ◎妊娠中・授乳期の飲酒には気をつけましょう。

壱岐 麦焼酎
かめはだか山の守

有限会社 山の守酒造場

代表取締役会長 山内 賢明 代表取締役社長 山内 昭人
専務取締役 山内 博達

〒811-5125 長崎県壱岐市郷ノ浦町志原西触 85
TEL.0920-47-0301 FAX.0920-47-0384

本
格
焼
酎



25度1800ml
山の守

◎お酒は20歳になってから。

お酒は20歳になってから

世界の銘酒「壱岐焼酎」

麦焼酎発祥の地が産んだ世界ブランド



壱岐酒造協同組合

理事長 横山 省三
副理事長 篠崎 修

「壱岐の塩」は壱岐のきらめく海水をくみあげ、
平釜でじっくり煮詰めた手作り塩です。

周囲を海で囲まれた美しい島、長崎県壱岐。
人々の生活や自然に昔ながらの風情を残しています。

きらめく海から生まれたこだわりの塩

壱岐の塩・天然にがり

壱岐の塩

玄界灘の澄みきった海

きらめく海から生まれたこだわりの塩

壱岐の塩

支國の塩

桜



株式会社 なかはら



NAKAHARA

長崎県壱岐市芦辺町箱崎中山触828-1
TEL 0920-45-4888 FAX 0920-45-4560
フリーダイヤル 0120-611-401

焼酎なるもの
 香りと味との
 優れなり。
 昨今中類の如き無味無臭の酒類を造る者多し。
 予も、餘年造る酒類に、これより大く、
 味、正に喉痛所を極むるべくもの半麹。風味と
 大なる差ありと云なり。若殿君、御覧せ。
 島國土酒の造り物なり。



長崎県壱岐市芦辺町諸吉二亦触1664-1

株式会社 壱岐の華
 代表取締役 長田 浩義

TEL 0920-45-0041
 FAX 0920-45-1855

お酒は20歳になってから



e | @



◀ 20cmED ^ fiV] u ~

fi -@ A L a \ @ ~R@

{ - \$203-0032	s vfi~s0 4-23-2	Tel.0424i73 \$569	Fax.0424i72 2291
V h i t B X \$160-0022	sVh Vh 1-34-12 Vh.	r 903 Tel.0313350 \$722	Fax.0313350 \$547

車にやさしい ノーフラシ洗車場

スフラッシュ自由が丘

世田谷区尾山台3-29

スフラッシュ深大寺

調布市深大寺東町2-12

株式会社 三城洋行

代表取締役 横山 登 〒214-0013 川崎市多摩区登戸新町31-8 TEL044-299-9184

奥壱岐の千年湯

平 山 旅 館

女将 平 山 宏 美

電話 0920-43-0016

<http://www.iki.co.jp>

うまか料理

活きのよか壱岐の魚

美味しい壱岐の焼酎

息・抜・き・所

「壱岐」

〒168-0062 東京都杉並区方南2-18-13

もしもし 03-5378-2226

丸の内線 方南町駅より徒歩1分

創立 15 周年

関 東 初 山 会

会長 長 嶋 一 雄

他 役 員 一 同

事 務 局

〒239-0814

横須賀市二葉2-2-2

TEL 046-843-8456

壱岐とともに56年目

東 京 渡 良 会

会 長 前田 太郎

〒270-1142 千葉県我孫子市泉38-1-101

幹事長 高田英志

TEL & FAX : 04-7139-3862

郷土愛に根差した
公正で正確な報道
壱岐の島の情報

壱 岐 日 報

〒811-5133 長崎県壱岐市郷ノ浦町本村触654

(有) 壱 岐 日 報 社

電 話 0920-47-0014 F A X 0920-48-1004

☆ E-mail ikinippo@grace.ocn.ne.jp

F %
y 0
... y 0
@ @
S @
.
ヒ V ° V
・ヒ° S% mY
y 0 ~ db 0920-47-1405
@W@ " Oq
q > sl @ ' OY



森谷正規

東京雪州会名誉会長
放送大学名誉教授

おみやげの店

地元で採れた雲丹を一本一本手詰している、一塩粒雲丹（彦岐産100%）わかめ・ひじき・アオサ・煮干等取り揃えています。地方発送も受けます。

（有）吉田商店

〒811-5135

長崎県彦岐市郷ノ浦町郷ノ浦174番地

TEL：0920-47-0020

FAX：0920-47-0030



非鉄金属用フラックスのトップメーカー



株式会社 ファウンテック

代表取締役 万谷 正

〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 新東京ビル

TEL 03-5218-8291 FAX 03-3214-8091

URL <http://www.fountec.co.jp> E-Mail fountec@fountec.co.jp

営業所：東京 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 新東京ビル

名古屋 名古屋市中区錦1-20-19 名神ビル7F

大阪 大阪市淀川区西中島5-2-5 中島第2ビル408

九州 福岡市博多区博多駅前2-17-15 NPCビル3F

技術部： 静岡県富士市蓼原722-1

工場：奈良 奈良県御所市室493

栃木 栃木県鹿沼市茂呂2611-12

彦岐人の集いで創立は大正6年

東京雪州会は彦岐出身者の関東地区における親睦・交流団体で、九十年余の歴史を刻んでいます。

玄界灘に位置する私達の故郷・彦岐の島は「古事記」の昔から大八州（おおよしま）の一つに数えられています。また「日本書紀」では「彦岐の州」または「彦岐の島」となり、いずれも「ゆきのしま」と読ませているそうです。

「和名抄」には「由紀の島」とも書かれ、「万葉集」には「由吉の島」、「姓氏録」では「彦岐」と記されていると伝えられています。「雪州会」の名称の由来は諸説あり、定かではありませんが、こうした古書による島の読み方由来しているとの説もあります。

東京雪州会の創立は一九一七年（大正六年）で、九十三年の歴史と伝統を刻んでいます。初代会長の三富道臣氏らの尽力で実現し、故郷を遠く離れた東京の地で、同郷の士が励まし合い、各人の志を高め、練磨することに目的があったようです。

二代目会長は「電力王」とも称され、電力の安定供給を通じて日本経済発展の礎を築いた松永安左エ門翁（終身会長）、そして三代目は普選運動で活躍した代議士でもあった眞鍋儀十翁と続く。四代が白川忠則、五代長岡元、六代松坂直美、七代後藤園丸、八代立石公博、九代森谷正規、十代山内賢明の各氏が名を連ねる。平成二十二年十月から十一代の牧山康敏氏に続きます。

〈故郷に誇りを 未来に夢を〉

◆「雪州会だより」第38号をお届けします◆

▽…この夏、日本列島は観測史上で最も暑い猛暑・酷暑に見舞われました。その反動でしょうか。秋は足早に過ぎ、ふるさと彦岐の野山もそろそろ冬支度の季節が間近いようです。

▽…彦岐では一支部博物館が三月にオープンして賑わい、一筋の光明が差しています。半面、人口減少のあおりで、彦岐の中学校は十校から四校に統廃合となります。一支部博物館に関しては須藤正人館長に経緯や意義について寄稿いただきました。

▽…中学校の統廃合は、大部分が母校と校名が消滅することになり、卒業生にとっては感慨ひとしおです。各中学校の卒業生の方に「母校の思い出」を綴っていただき、特集しました。それぞれの青春多感な「中学時代」への想いは、胸に迫るものがあります。ただ、これを新たな出会いの機会と捉えて前進しよう、との励ましは貴重です。

▽…今年も多くの皆さんに興味あるお話を紹介いただいています。仕事の話、趣味の話、終戦時のこと、彦岐ツアーのこと等、読み応えあるものばかりです。また広告協賛いただいた皆様にも御礼申し上げます。皆様のご支援が雪州会を支え、東京雪州会は皆さんとともに歩んでいきます。

（牧山康敏）

今 混迷の時代を拓く指標は何か――

発刊11周年

週刊 講演CD・カセット

POWER LECTURE パワー レクチャー

週刊講演CD・カセット パワーレクチャーは、各界の著名講師が弊社講演収録スタジオで行う
80分の本格的な講演を、毎週1回、会員のお手元へ直接お届けする新情報源です。
テーマは経済、産業、国際情勢、政治、経営、テクノロジー、文化など幅広い分野にわたります。

代表取締役 立石公博

―― 激動の時代を読み抜く情報源 ――

講演の 暦 日 会
株 式 会 社 REKI JITSU KAI

〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-16 京橋立石ビル
TEL.03-3517-1211 FAX.03-3272-1781
<http://www.rekijitsukai.co.jp/>

～宇宙の技術を暮らしの中へ～

特殊セラミックスを塗料化
省エネ・断熱のプロフェッショナル

断熱塗装材 「ガイナ」



ガイナを塗るだけで、夏は涼しく、冬は暖かに

総合ビルメンテナンス



株式会社 **クフカタ商事**

URL: <http://www.kurakata.co.jp>

〒144-0031 東京都大田区東蒲田2-6-16 TEL 03-5744-7224 / FAX 03-5711-5656

私たちレオパレス21は ひとと住まいにまつわる トータルサポート企業です。

国内ホテル事業
豊かな暮らしを
満喫する

シルバー事業
シニアライフを送る

レオパレス21

建築請負事業
土地を活かす

リゾート事業
豊かな暮らしを
満喫する

賃貸事業
賃貸に住む